

山小屋番からのメッセージ

話題提供 **山口 孝**さん (涸沢ヒュッテ会長)

日 時 **2月14日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室 定員 50 人**
参加費 200 円 (高校生以下無料)
※ 電話での事前申し込みが必要です

北アルプスの涸沢で働き始めて、今年が55年目のシーズンになります。

ヘリのない時代、小屋番の大事な仕事は歩荷(ぼっか)でした。山小屋の食料は全て歩荷が頼り。毎日、横尾まで1時間で下り、70kgほどの荷物を3時間かけて担ぎ上げます。不思議なことに、一週間ほど歩荷を続けると、自分の体重くらいの荷物は背負えるようになるのです。

1980年代になるとヘリが飛ぶようになりますが、天候に左右され飛ばない日も多く、歩荷には、「雨が降ろうが槍が降ろうが、握り飯2個で背負ってくる」自信がありました。

毎日歩く横尾から涸沢までの道は、いわば自分たちの通勤路であり生活道路でもあり、「大事な道」。降りる時も、荷を担いで登る時も、右足・左足の置くところが決まっており、ちょっとした異変にもすぐ気が付きます。荷物を背負いながら、けがをせず効率よく歩けるよう、こまめに道直しをしています。

小屋番は多くの登山者を受け入れますが、登山は基本的には「自己責任」の世界です。装備や登山道などの条件が良くなっても、山の厳しさは変わっていません。自分の能力、体力に合った山登りをしてほしいですね。

私は山に対して感謝と畏敬の念を抱きながら生活しています。そんな小屋番の生活ぶりの一端を、映像とともに紹介したいと思います。

山口孝(やまぐち・たかし)さんは1947年、東京生まれ。72年から涸沢ヒュッテで働き、2001～20年社長、20年から会長に。07～16年、北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会救助隊長を務めた。松本市波田。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986